

高齢者・障がい者権利擁護セミナー

『当事者主体の支援』

当事者権利と権利擁護

当事者権利から考える「より良い関わり」

日時 平成30年3月15日（木）13時～16時30分

場所 仙台弁護士会館 4階大会議室

～振り返り～

特定非営利活動法人

宮城福祉オンブズネット「エール」

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町二丁目3-12 大町マンション301

電話 022-722-7225 FAX 022-722-7199

Eメール lastword@alto.ocn.ne.jp ホームページ <http://yell.hello-net.info/>

『当事者主体の支援』

1 当事者権利と権利擁護 13:00～

宮城福祉オンブズネット「エール」 副理事長・スーパーバイザー
小湊 純一（社会福祉士）

- (1) 「当事者主体の支援」セミナーの目的
※自己紹介，司会決め
- (2) 福祉サービス当事者の権利 ～施設ケアの実践綱領から～
- (3) 当事者の基本的欲求と権利
- (4) 当事者主体の支援を考える（ビデオ）

～休憩～ 14:00～

2 当事者権利から考える「より良い関わり」 14:15～

～当事者権理を基にした関わりの実践から～

清山会医療福祉グループ 事業支援室 企画部次長
鈴木 みゆき 様（介護福祉士，社会福祉士，精神保健福祉士）

- (1) 「当事者権理を基にした関わり」の理念と取り組み
- (2) ビデオ演習
 - ① 礼儀と尊重
 - ② 当事者を理解しようと努力する
 - ③ 生活支障の原因は何でしょう
 - ④ 当事者のことは当事者と話し合う
- (3) おわりに

3 「当事者主体の支援」振り返り 16:10～

- (1) 振り返りシートの整理
- (2) 今後に向けての意見交換

受講の振り返り

I 「当事者主体の支援」についての講義・演習によって得たことは何ですか

- 1 当事者の声に耳を傾けることの大切さと必要性。時間をかけることは、その当事者を理解しようとする姿勢にもつながっていることとと思いました。ただ聴くのではなく、真剣に聴くことが前提ですが…。
- 2 普段何気なくかけている声かけや関わり方が「介護者主体」だったことに気づくことができました。施設やサービスを使っている生活の主体は本人だという事を学びました。
- 3 相手の事を理解しようとする事で、これからはもう少し利用者様の話を聞いていきたいと思いました。
- 4 当り前の事がきちんと定義されているのに大変ショックであり、もっともっと周知の必要性があると思いました。
- 5 支援者主体の支援になりがち、本人のことを知らずに最低限のところで支援していたかも知れない。「本人に語ってもらうこと」「本人と一緒に考えること」時間をかけてゆっくり尊重しながら関わっていくことが大事だと思った。
- 6 当事者の声に耳を傾けることの大切さに改めて気づかされました。その一方でその声や想いを聞くことの大切さも理解できました。しかし、その大切さも含め一人の人を支援していくという姿勢と努力が必要になることを講義・演習を経て学びました。
- 7 当事者の声を聞くことから始まり、聞くためには話してもらえ自分になる必要があること。理解しようと努力すること。
- 8 当事者主体の考え方を知ってはいても、実際に態度に表してなかったり、行動に移していなかった自分に気づくことができました。口では利用者に寄り添っているつもりになっていましたが、相手からその通り受け取ってもらえていたか省みる機会になりました。
- 9 現場ではビデオと同様に、利用者の話を流して聞いたり、きちんと受け答えしていなかったり、言葉遣いに配慮が足りなかったりする点があり、自分自身の反省として受け止めて見た部分もあった。自分の考えを押し付けたりするのではなく、当事者にはどのようなことが起こっているのか受け止め、寄り添った対応をすることを心掛けていきたいと思った。
- 10 まずは、当事者主体とはどういうものかということを改めて考える良い機会になりました。口では簡単に当事者主体の支援と言うことは出来ませんが、実際今自分が当事者主体の支援が出来ているかと考えさせられました。当事者のことは当事者と話し合うという当り前のことが出来ていなかったように思います。時間がかかっても本人としっかり向き合い話をしていく大切さを改めて学びました。
- 11 以前はデイサービスで働いていましたが、当時を振り返ると「この時が一番ご本人に寄り添っていたな」と思います。現在包括で勤務し、ご本人様だけではなく、ご家族様と

- 密に接する機会が多くなりました。勿論ご本人様の意向も伺っていますが、無意識に最終的な決定権は家族という動き方になってしまっていることに気づいた。
- 12 介護提供側からの目線で困ったことを判断していたことに気づいた。本人が置き去りの介護計画書によるサービス提供等反省が多々ありました。
 - 13 認知症の理解。認知症の再確認（直接ケアを行うスタッフに対してどう説明し、指導すれば良いか疑問が残りました。）
 - 14 当事者を理解しようとする。一人一人に合った関わり方を考えて行動する。一つの行動でも声掛け等が必要だということ。職員の立場ではなく入居者の立場で考えることが大切だと思いました。
 - 15 当事者の気持ちを考え、顔を見ながら話し合っていくという基本を念頭に置くことが大事だと改めて認識しました。視点や自分たちのアンテナをいかに張っておくべきか。支援者側が陥りやすい自己満足レベルの対応をしていないか。
 - 16 ①礼儀と尊重→職員の基本的態度としてあるべきこと。礼儀（義務）尊重（権利）不可欠②当事者を理解しようとする努力する事。言葉や気持ちを聴く、理解する。当事者の望みについて考える。③生活支障の原因を考える。④当事者のことは当事者と話し合う。
 - 17 自身の業務において、本人が希望と伝えられない場合、本人主体ではなく家族や支援者が主体になっていたことに気づいた。
 - 18 認知症や障害があるからと言って、出来ない人、分からない人と決めつけないこと。認知症ではなくその人をよく見ることの大切さ。現場で実践することの難しさ。
 - 19 常に念頭において常務を実行しているつもりでしたが、ビデオの中でもあった様な対応が私の周りで全く無かったかと考えると、不十分である事に気づきました。チームとして関わるのが大事だと思っていますので、今後の課題として研修等に役立てたいと思いました。
 - 20 本人の話聞くこと。そのためには話しやすい環境であるか、本人との関係性。本人が気持ちを話せるようにしていくことが大切と思いました。
 - 21 認知症＝何も分からない人という認識や偏見を持っている。当事者をないがしろにして決めてしまっている。
 - 22 当事者のことを理解しようとする努力することが大切で、本人の思いや考えを尊重できる言葉掛けが大事だと思いました。
 - 23 障害があることによって普通の生活をするのに支障が出るのは支援する側が支障をきたしている。ということもあるのだと思いました。どんな人に対しても礼儀と尊重を持って接する。知りたいことを本人へ聞いてみることで理解できることもある。支援する側の勝手な思いを押し付けてはいけないと思った。
 - 24 「当事者より聞き取りができていたつもりだった。」のではと。今回の講義・演習により、より理解できました。支援者としての思い込みはビデオを見て「こわさ」を感じました。関わりの中でその人の価値を認めて肯定的に関わる必要性を改めて得られました。
 - 25 支援者が当事者の想像するのではなく、当事者の立場にたって考えたり、当事者の意見を聞きだすことが重要である。

- 26 認知症や障害の有無にとらわれず、本人に寄り添い想いを受けとめることの大切さ（理解者として認識してもらうこと）支援しすぎないことの必要性。
- 27 本人からちゃんと話を聞き何が不安なのか、何を求めているか？当事者とちゃんと話すことが必要と感じました。
- 28 業務に追われ。利用者のことを一番に考えた仕事をしようと思いました。
- 29 これまで好意で行ってきたことや、良かれと思って無意識で行っていたことについて、本当に本人の為だったのか振り返ることが出来ました。当り前のことのはずなのに出来ていなかった、考えていなかったと思います。
- 30 病気や年齢関わりのある人によって対応をどのようにしているか、改めて考えることが出来た。認知症は家族の思いが多く、本人と話し、お話をできるような対応を考えること。
- 31 日常のケアの中でも見られる課題と重ねて考える機会となった。当事者主体が先行し、実状は支援者側優先の場合が多い。その方の思いややりたい事、出来る事をゆっくりと引き出し、その方らしく生活できるお手伝いが沢山あると感じた。
- 32 視線を合わせて声がけをするという姿勢が大事。何を探しているか、どうしたいか、本人の意見（思い）を聞いてあげられるように心の余裕が必要かな。
- 33 本人様に時間をかけゆっくりとお話しすることにより安心していただき、一人ではない、そばに安心できる人がいるという気持ちを持っていただくことが大切だと思いました。
- 34 一日一日を普段どおりに生活や仕事をしていくことで、慣れによる問題意識の弱まりが自分にもあると思った。
- 35 利用者本人の全て（ありのまま）受け入れてから出来ない所や不足していることを支援していく。（慣れ合いはダメ。）自分がその立場になったら？と考えてみる。
- 36 どんな状態の方でも自分の意思があり権利があることが分かった。そのお手伝いを私達がやらなくてはいけない事の大切さを知りました。
- 37 私達は仕事に慣れ、関わりに慣れ、専門性を身につける程、本人主体の支援が出来にくくなる事が理解できた。分かったつもり、効率的に専門的にその思いが、ご本人の気持ち言葉を経験で捉えて主観的になりやすいことに気づいた。この自覚を意識した関わりを今から再スタートして行きたい。
- 38 当事者の声に耳を傾けたり、当事者をもっと掘り下げてどんな人物なのだろうと関心を持って接したり話を聞いて理解する努力が大切である。当事者の障害を理解することが大切であると思った。
- 39 自分だけでなく、施設として「利用者様目線になることの大切さ」を改めて知ることができた。「利用者様は職員をよく見てる。」という言葉は確かにそうだった。
- 40 認知機能に障害がある方も相手をよく見ており、対応によって安心したり不穏になることがあることを学びました。
- 41 当事者抜きで当事者のことを決めてはいけない。専門性が高ければ高い程、当事者を尊重出来ない危険性がある。「私はここにいる」と言う心の声を聴く。
- 42 「当事者主体」耳障りがいい。実際は出来ないのも本当にそうだと感じた。理解ある努力が必要。

- 43 人は価値のある人間として尊重してもらい認めてもらいたいと思っている。認知症の方に語ってもらい、教えてもらって、一緒に考えていくことが大切であること。本人から学ぶ。
- 44 今までの関わり方で充分だったのか、当事者の事を知ろうとする努力ができていたか、振り返る機会になった。同時に「当事者主体の支援」というのが、どの位難しいかを学べたと思う。
- 45 権利から関わると言うこと。よって本人の声から私達は学んでいかなければならない。
- 46 自分自身が最も「当事者主体の支援」という目線から遠ざかっていたことに気づいた。
- 47 日々に業務に追われ、忘れていた事をハッと思い出させていただきました。「認知症を見るのではなくその人を見て」という言葉が一番心に響きました。当事者の思いを勝手に決めつけない。
- 48 ご本人の想いや声を真摯に聴く。障害によって生じる不便さを理解することが大切。どんなサポートがその人必要なのかを理解することにつながる。
- 49 家族の話が主体となり、本人の話が主体となっていなかった事に気づかされた。
- 50 ご本人を知る事。知るためには会話が大切です。認知症のかたからすれば知らない人しかいない、知らない場所は誰だって不安です。そんな中自分の味方が一人でもいると思うと安心できると思います。
- 51 日頃を通して利用者一人一人と関わりを持つようにしておりますが、なかなか出来ない部分もあったので、今回の講義を受けて、当事者主体の自己決定をしていくことが必要だと、改めて意識させられて良かった。
- 52 当事者の心情や不安、困り事の理解について
- 53 ご本人を「理解しようと努めること」の大切さ。まずは、ご本人の話を聞くこと。ご本人に語ってもらえるような自分であるために、常に自分を振り返り見つめ返していくことが必要であるということ。
- 54 つるさんのビデオを観て、自分の職場に置き換えて考えると同じことをしている時がある。現場の一日を録画して見てみると客観的に見れて、改善の糸口になるかも思ったりしている。
- 55 当事者主体を常に意識することが大切である。意識して関れないと、今までと何も変われなくなる。「自身が意識し他に伝えていく。」を続けていくことが大事ということ。
- 56 「当事者主体の支援」について学び、普段の何気ない行動が適切ではないことに気づかされました。グループワークでも大切な意見が上がり、当事者様との関わりに生かしていこうと思いました。
- 57 すべての人に権利があり、個として尊重されるべき。また自分で決定する事が出来、非難はされたくないという当たり前のことが仕事に理解し実践されているのか、見直しが必要だと思いました。
- 58 当事者の基本的欲求は少なからず現場で勤務にあたる介護・看護も常に頭において対応していると思うが、忙しく働き手が少ない環境においては配慮不足や実践されてい

ない現状が目立ち悩みの種でもあった。働く当事者でもある職員に理解してもらい、意識してもらおう為のきっかけを得た。

- 59 当事者本人の傍に寄り添い、その人が話をよく聞いて、その人がどんな考えを持っているか、どんなことをしたいと思っているか、理解する努力をすることが必要であると学びました。当事者の話を聞くときはゆっくり、その人が伝えようとしていることを聞き取る時間を持つようにすること。
- 60 私なしで私の事を勝手に決めないでほしい。当事者のことを理解する努力が必要であること。支援者主体のケアになっていなかったという気づき。本人の思いや意向を無視したケアプランになっていなかったかという気づきになった。
- 61 「認知症だから自我がない」というのは大昔の話で…。周辺症状には必ず意味があり、その意味を、思い、を介助者である我々が、ご本人を真ん中に据え、どうしていくべきかを考えることが重要である。一人の人間として尊重する。
- 62 障害がある事その人自身をしっかり区別して対応することが重要。そのためには障害の種類、程度をそのことによる本人の生活のしづらさを理解することが必要。相手に「自分のことを理解しようとして努力している」と思ってもらえる。伝え方、説明の仕方を学ぶ必要がある。
- 63 今までの自分の実践を振り返ってみて、今回学んだ「当事者主体」の意味を理解して支援することができていなかったと思う。気づくことができた。まず話をよく聞くこと。
- 64 当事者を理解しようとして努力を改めてしていかなければと思いました。RBAの重要性。
- 65 事例を通し、利用者主体から支援者主体になっていることが分かり、改めて利用者主体の重要性を理解した。
- 66 当事者の方に向き合い、ゆっくりと話を聞く、ということが大切であるが、忙しいと言い訳して十分にできていなかったかもしれないと気付けた。
- 67 当事者主体常に頭の中では思っているが、本人の周りの人間関係等があり、困難になる場面も多いと感じています。そんな中でも当事者に働きかけていき、少しずつでいいので考えを聞き出していく努力をしたい。
- 68 私の施設では定期的に勉強会を行っていて、当事者主体の支援は念頭においています。ただ新たに講義を拝聴し、原点に戻って、利用者様との関わりをもう一度考えたいです。
- 69 本当にその人を理解するということが大変なことだと改めて気づきました。その人の気持ちになって考えること。どうしたいと思っているか考えることができました。
- 70 相手の事をどこまで理解しようとして努力することが、職員として必要であり、あらゆる場面において礼儀や尊重という態度が必要だと学びました。
- 71 講義では当たり前の権利について改めて意識していかなければならないと感じました。演習では実際のグループホームの映像を用いて考えることで初心に戻って、権利について意識していかなければならないと感じました。
- 72 支援者が決めて〇〇出来ますよと言うのではなく、当事者に何かしたいことがありますか、と考えていることを引き出すことが必要だと思った。

- 73 当事者に聞いてみる。当事者を巻き込む。当事者を交えて支援を進めていく。これまでも少しはやってたつもりでいたが、不十分だったと反省した。
- 74 普段自分が良かれと思ってケアしている事が本当は当事者にしてみれば余計な事だったり、嫌な事などに気づかされた。また、グループでの話し合い等もいろいろな意見が聞けて良かったと思う。
- 75 私は高齢でも認知症でもないで、当事者の思いについては、予想や想像（私がこうされたら嫌だからきっと嫌だろう…）の世界なので、本当の意味での当事者主体は難しいと思う。色んな考えの色んな人がいるので、当事者主体の支援だからこうあるべき！とはあまり考え方を固定したくないと思った。その人一人一人を見ていきたいと思う。
- 76 当事者に寄り添った支援の必要性。関わり方によって当事者の人生が左右される。
- 77 どうせ〇〇だからではなく、肯定的に関わる。礼儀と尊重。当事者を理解しようと努力する。生活支障の原因は何か。当事者の事は当事者と話し合う。
- 78 当事者主体が改めて重要である事を認識させられた。気が付かない間に職員主体、こちら側都合や勝手に主体がズレてしまっている事があった。常に意識して取り組んでいきたい。
- 79 当事者抜きで携わらないで。自己決定は基本的欲求。話し合うことで、当事者を理解する。
- 80 自分自身の行っているケアについて見返す機会となり、つい独断で行動、利用者様本人の意思がないがしろになってしまっていることはないかと考える良い場面となった。
- 81 当然のことだが日常的な会話でも礼儀は大切と感じた。本人の支障をしっかりと見なくてはならないということを学んだ。（認知症状の理解など）つるさんに対するスタッフの姿を客観的に見て自分自身の振り返りになった。
- 82 個人として尊厳を守る事はとても大切な事。どんな障害があっても、支援を受ける事で自己決定する事。
- 83 障害の理解をすることが本人の出来ない事への支援。配慮の大切さ。
- 84 今まで当事者の話を聞いていたつもりだったが、意識的に自己決定を手助けしていたかという、出来ていなかったと思う。利用者の関わりの中で良いケアを提供する上でとても良い内容でした。
- 85 ビデオを観て、つるさんの様子、スタッフの対応で、改めて当事者主体の支援を考えることができた。100%理解することは困難でも理解しようと努力することが大切だと感じました。
- 86 皆一人の人として認めてほしい。尊重してほしいという気持ちをもっているということに改めて実感しました。権利擁護という、身体的虐待をイメージすることが多かったのですが「一人の人として尊重する」という当たり前のことが実際には出来ていないことが多くて、これを実践することが権利擁護になるのだと感じました。
- 87 支援をするにあたり、職員の目線で支援するのではなく、当事者の目線に立ち、当事者のことを理解するように努めながら支援することが大切だと感じました。
- 88 当事者は誰なのか、きちんと意識しなければ支援者主体、支援者が主導で「良かれと思って」という支援に陥るので十分に注意が必要。

- 89 「相手のことを理解しようと努力すること」の大切さを改めて知ることができました。
- 90 この人は認知症だからわからないだろう、こうであろうとの決めつけで関わってしまいがちになるが、当事者も一人の人であるということ、理解していくことの努力を怠ってはいけないことを改めて考えることができた。
- 91 利用者の持つ権理について意識できたこと。
- 92 病気が有ってもなくても、ずっと変わらずに自分らしい暮らしを続けられるということは、あたりまえのこと。
- 93 一人ひとりの話を聴く(尊重すること)。指示が入らない→認知症の方にとってあたりまえのこと。言うことを聞いてくれない→認知症の方にとってあたりまえのこと。本人のことをわかろうとすることは大変。
- 94 当事者の声を聞き逃さず、当事者と1対1で向き合い敬意をもって接すること。
- 95 “当事者主体”という本来当たり前であるべき考え方を、業務実践の中でいかに意識化し、課題を常に持ちながらとらえることの難しさと重要性を再認識しました。
- 96 長年しみついたものがあり、どうしても支援者目線でみるクセができています。本当の当事者主体はなかなか難しいと思ったが、努力し続けたい。
- 97 いつも時代でも、やっぱり「当事者主体」、どこの業界でも「当事者主体」であること。その当の本人の気持ちをどこまでくみ取っていけるのか、研修の時ばかり言っているのはダメだということがわかりました。障害を理解しながら「心」と「心」をつなげていかななくてはならないと実感しました。
- 98 礼儀と尊重(一つ一つ言葉や利用者様の気持ちを聴く力を鍛えていくことが自分は勉強になりました。)
- 99 事例を通して本人の思いやスタッフの考えを深く考えることができた。当事者の思いをぬきにしたケアや環境は不安の中で生きることだと思った。
- 100 本人をよく見る、よく話を聞くことが大事だと感じました。介護者の話を聞くことが多いこと、本人の話を聞いていないこと、自分の思い込みで話をしてしまっていたことがあったと反省点が多くありました。
- 101 認知症の方でも普通の人ということ。
- 102 グループワークで直接処遇している方々の意見を聞くことができたことは大変有意義でした。
- 103 RBAという言葉を知った。まだ情報収集の方法、知らないことがあると感じた。
- 104 「高齢者も大切に、そこで働く職員も大切に」という考え方に共感。研修を受けても数か月経つと認識が薄くなっているのを定期的に聞けることは良かった。
- 105 本人の思い、声(話)を聞くことの大切さ
- 106 当事者に関わるにあたって、自分自身が「支援者」であることを再確認できた。当事者であっての支援、当事者のための支援なので、視線を同じところに持っていけるよう努力することが必要なのだと感じた。

- 107 利用者との間柄が命令口調では、効果的なサービス提供にはつながらない。あくまで、本人を尊重するという姿勢が信頼関係を育み、効果的なサービス提供につながるということ。
- 108 当事者主体と頭で分かっている、仕事をする中で忘れてしまっていた事やしなくなってしまった事などがたくさんあることに気付きました。
- 109 当然にあるべきことを、時として見失っている自分に気づくことがあることを思い知らされた。
- 110 「当事者主体」という言葉の意味を正しく理解できた。自分の中にあった「利用者主体」と同じものと思っていたが、「実際に障害を持った当事者」が、個人であることの権利、自分で決める権利を持っていることであって、利用者の意思を汲んで、スタッフが決定をすることとは別物に感じた。
- 111 本人のことは本人と話し合う、本人のことは本人に聞く、ということについて考える時間をいただきました。見直すことが出来ました。
- 112 人は何才になっても”自分のことは自分で決めたい”という思い、不安な時は周囲のサポートを求める。そして周りからも認められたいという気持ちがあることに気付いた。
- 113 利用者様の「目を見て会話する」ことの重要性
- 114 当事者ときちっと向き合っ、しっかり話を聞くことで当事者のことを理解しようと努力していくことが大切だということを学べたことが得たことです。
- 115 あくまでも当事者様が主体で事業所側が勝手に当事者様の生活の仕方などを決めてはいけません。
- 116 あくまでも利用者様の生活の延長線に介護は存在している。常に「どうされたいのか？」問いかけを怠らない。異常と受け止められる行動には必ずどこかに原因がある。
- 117 あらゆる関係において、礼儀と尊重が不可欠。相手のことを理解しようとする努力が大切。
- 118 言葉づかい、対応の見直しをしなければいけないと思いました。
- 119 今回の「当事者主体の支援」の講義・演習を通して、当事者(利用者)様を理解して接していくということがいかに大切かを改めて感じました。認知症の問題行動と呼ばれる行動にも、ご本人にしてみれば、必ず意味がある。それを理解しようという姿勢が大切だと気付けた講義でした。
- 120 今までしていた介護がいかに当事者主体ではなかったことに気づき、介護に自信をなくしてしまいました。
- 121 当事者主体。その人を見ること、知ること、考え、思いを受け入れる大切さ、関わりの中で礼儀と尊重の大切さ、私のことを決めるのに私ぬきでやらないでとの考え方。
- 122 主役はあくまでも当事者であり、それをお手伝いしているということを忘れてはいけませんと感じました。
- 123 当事者ぬきの支援者主体となっていること。動画での場面、職員の会議場面であるが、別室でケース会議をするくらい、人手が足りていないのではないのか。会議室に移動して会議を開催すれば利用者を見守る職員がいない。

- 124 当事者主体の支援を考えていく際に、時折分からなくなることがありました。その時に立ち戻る根拠について再確認できたと思います。
- 125 あたり前に守られるべきことが、実際には日々の忙しい業務の中で自分が行えているのか、考える時間となりました。利用者様が「自分を理解してくれている」と感じていただく大切さを学びました。
- 126 当事者主体、当事者の声に耳を傾けて関わっていくことを学んだ。
- 127 本人にどれだけ寄り添い、耳を傾けることができていたか、振り返ることができました。
- 128 障害分野では、IL 運動以降当事者主体の考え方が基本に施策も変化してきていますが、改めて原点を確認させていただきました。
- 129 顔を見て、利用者の言葉に耳を傾ける事。
- 130 今までは、分かっている、良いことと思って、その人へサービスを提供していた。当事者主体のサービスを行うには、その方から話を聞くことが大切だと分かった。施設に入っている方と地域の方で態度や言葉遣いが変わるのはおかしいことだと気付いた。
- 131 やはり難しいことだと思います。現場とのギャップが大きい。しかし考え、行動しないことには何も変わらないし、変えられないと思いました。
- 132 「管理」「監視」に陥りがちな介護からの脱却と対話を通じて利用者様を理解しようとすることの重要性。
- 133 利用者様の考えを理解するよう努力することが大事と学び、普段業務をする上で自分が本当に相手を理解しようとする努力をしているのか？と見つめなおすことができた。
- 134 利用者の為に行動をするのではなく、利用者がどのようにしたいのかを聞く、受け入れる姿勢が大切であることが分かった。
- 135 認知症当事者のことは、当事者と話合うという大前提が権利擁護なのだという発想が、今までの考えとの逆転に近い発想のように感じました。
- 136 何も思っていないが、建て前で当事者との話し合いの重要性。
- 137 認知症の障害を持った人の障害をエピソードで理解した。当事者の不安、苦悩を受け止め障害の度合いを学ぶ必要があると感じた。
- 138 当事者の気持ちに寄り添うことの大切さを、うっかりと見過ごしてしまうことがあるな一と、自分を振り返り反省しました。

II 得たことを実践でどのように活かそうですか

- 1 アセスメントで生活の支障を把握している際、ご本人がどう思っているか、意向を聞く時に、急がず雰囲気や一方的にこちら側の言い分を押し付けるのではなく、時間をかけて意向を聞こうと思いました。
- 2 何かを決めたり、何かを行う時は、スタッフが全て決めるのではなく、本人が自身の意思を伝えられるように支援し、本人も参加して決めていければと思った。
- 3 利用者様のやりたいこと、どういう風にしていきたいのかを一人一人話をしてなるべく出来るようにしてみようと思う。
- 4 ロールプレイで研修できた。

- 5 説明の仕方や聞き方の工夫, 本当に私に話してもいい, 相談したいと思えるような環境や関係作り。ゆっくり時間を取る。
- 6 職員がどのような状況下に置かれても, 当事者にとっては関係のないことだと思いません。自分がどれだけ忙しく辛いと思っても, 当事者の声を大切にして, ゆっくりと話しを聞き, 一緒に考えていく時間を作りたい。
- 7 良かれと思っての一方的な支援ではなく, 当事者主体を意識して話を聞いていく。理解しようとする努力。
- 8 自分でやっているつもりでも, 相手からそうは見えないと言われてることがあるので, 体で表していくことが自分に必要であると感じました。まずは, 相手の話を聞くこと, 立ち止まって礼儀を尽くすことを始めたい。
- 9 忙しさの中で流れてしまったこともあると思うが, 利用者の行動, 言動, 症状の中に当事者には何が起きているか, 何を望んでいるか想像し, 寄り添える関わりをしていきたい。
- 10 包括センターで働いていて, 本人が自分の意見を話して下さることもあれば, 家族からああしてほしい, こうしてほしいと意見が多く出されることも勿論あります。その中で本人の意見を第一に考え, その中で家族ともしっかり話していく必要があると感じました。まずは, ご本人の声をしっかり話していく必要があると感じました。まずはご本人の声をしっかり聞き, その人らしい生活が送ることができるよう支援していきたいと思えます。
- 11 ご本人様とご家族様の意見の食い違いで悩むことが多く感じます。「何故家族がそう考えているか」「何故ご本人様がそう考えているか」をより深く掘り下げ, 不安の解消や要望の聞き取りを行い, できるだけ誰の立場になっても安心できる生活を整えられるよう努力したいと思えます。
- 12 認知症状は病気であり, 「接する力」を考えてサービスに活かしたいです。内部及び外部研修として取り入れ, ご本人を理解できるスタッフを育てる事が, 施設で生活する事を余儀なくされた方々への最善のサービスだと思えます。
- 13 日頃の関わりの中で慣れてしまっていることが沢山あると実感しました。当事者権利を意識した支援をしたいです。
- 14 現場で当事者だったらどうなのか。どう思うか。考えながらケアをしていければいいと思う。
- 15 まず話をしようと思えます。基本姿勢である, 礼儀と尊重を心に持ちながら対応したいです。
- 16 障がいがあっても認知症があっても, 当事者のことは当事者と話し合い「自己決定」の原則に立ち支援する事。
- 17 家族だけではなく, 本人を交えた話し合いを行うことで, 本人の意向を尊重するとともに, 残存能力を活用した支援を行っていく。
- 18 認知症の相談は本人がしてくることはまずありません。その行動に困った近所の方や, 医療機関などからが殆どです。そのような場合本人が家で生活したいと言っても, 施設に入ることが解決策だと思われる方が多く対応に困りますが, 可能な限り, 本人の意見を聞いた上で, 支援していきたいと改めて感じました。

- 19 研修を通じてチームへ伝達し、認知症の方に対しての権利擁護の大切さ、難しさを理解し、取り組める様にしたいです。
- 20 ゆっくりと落ち着いて本人が話を出来るような空間を作る。支援者の理想や「良かれと思って」お押し付けないように気を付け、本人の意見や気持ちをくみ取るよう心掛ける。
- 21 本人の言葉にゆっくり耳を傾ける。
- 22 まずは日常の会話から信頼関係を築き、何でも話し合えるような、聞いてくれる人だと分かってもらえるようにしたいです。
- 23 遠くからでは理解できないし伝えられない。傍に寄り添い理解し、必要なことはさりげなく手助けしてあげたい。現場の中で後回しにしない。面倒くさがらずに安心して過ごせるように支援したい。
- 24 現在、精神障がい者と言われる方々を受け持ちしているが、その方の尊厳を持ち関わる事の必要性、行動性を改めて知り、活かそうです。
- 25 高齢者の関わりにおいてまず、きちんと名前を呼んで立ち止まってあいさつすることにより、尊重を表現できる。
- 26 初心に戻り声なき声を聴きたいです。どんな方でも権利と尊厳が尊重されるべきであることを念頭に対応を心がけます。
- 27 本人の目を見て話すことや、言葉遣い等、当事者の方を尊重した対応をしたいです。
- 28 一人一人の希望を取り入れ、尊重していこうと考えています。
- 29 自分の想像や勝手な思いだけではなく、一つ一つ本人と話していけたらと思います。
- 30 自分がされて不快な思いをするようなことをしていないか？病気などの理由で対応を変えていないかを意識して、本人とゆっくり時間をかけて話をして、思いを聞いていけたらいいと思った。
- 31 当事者の思いや困っている事、やりたい事を理解するために、尊いを持った関わり、配慮等に努めていきたい。
- 32 寄り添うケアとして活かしたい。「まごころ」真心ですね。
- 33 自分の職場の現在の対応、言葉、しぐさの見直し、気付きになりたい。自分の考え思いを、利用者様にあてるのではなく、利用者様がどうしたいのか、何を思っているかをくみ取り、行動していきたい。
- 34 同じ一日でも何のためにどのように対応するか考えて仕事をしていきたい。今日学んだ事を他の職員に伝えていきたい。
- 35 話を十分に聴いてアセスメントをしっかり行い、押し付けや自己満足していなかったか振り返りを行う。個々に寄り添う気持ちを忘れない。
- 36 セミナーで得た事を実際に全部行うことはかなり難しく感じましたが、小さい事、やれる事からやっっていこうと思います。まずは時間を作り、ゆっくり話を聞こうと思います。
- 37 利用者さんの関わりで、ご本人に気持ちを確かめて、共感できるように努めていく。また、チームで関わる上でもチーム全体が、ご本人の主体性を感じているか振り返りに活かしていきたい。

- 38 もっと当事者の話を聞き, 当事者の気持ちや考え, 感じている事思っている事を家族や周りの関係者へ伝えていけるようにしたい。
- 39 まずは職員一人一人の気持ちを知った上で, 研修を実施し, 実際に行っていく方がいいかと思う。困っていることや, 悩んでいることなど話合いの場を設ける。
- 40 ご家族とだけではなく, ご本人としっかりと会話をしていきたい。
- 41 家族や支援者の思いではなく, 当事者主体を考える事。生活の支障を見ていく。何に困っているか?見ていく。
- 42 家族主体のプランを作らない。本人を見る「病気を見ない」
- 43 認知症の方と静かな環境で, 本人の「頭の中のイメージを言葉にする時間を持つ」「さりげなく手伝う」考え方を本人の意向を聞くときに役立てたい。
- 44 利用者と話す時間を意識的に取ったり, 話かける時の言葉使いを直したり, 関わり方を見直す機会になると感じました。
- 45 当事者主体と分かっているながら, 家族や周りの声に流されてしまうことがある「この人はこんな人」と決めつけてしまう事に反省, 変えていかなければいけません。
- 46 直接のやり取りは無くても, 自分の仕事の先に「当事者」の視点を意識して取り組んでいこうと思います。
- 47 当事者とのコミュニケーションが一番だと思うので時間をかけてゆっくり話をしてみる。
- 48 キーパーソン不在の本人支援が多い業務ですが, かえって本人の言葉や想いに触れる機会の多い業務と思えるようになりました。障害の理解なく生じる本人の抱える不便さとリンクさせながら, ご本人の言葉や想い, 行動をみる視点を大切にしたいと思います。
- 49 時間がかかるが本人の話を本人だけで話せる環境を作り, 話をしても大丈夫と思うような人になり実践していきたいです。
- 50 ご本人の声に耳を傾ける事が大事だと思いました。ご家族寄りのサービスになってしまっているなあと感じます。
- 51 施設に戻って色々なことを当事者主体で自己決定できるように, 利用者様と関わっていければと思いました。また, 職員にも今回の演習の事例を上げて, 話合いの場を持ち, 今後のケアに活かしていきたいと思っています。
- 52 当事者の理解や配慮すべき点。
- 53 現実には, 日々の業務に追われ, ゆっくり時間をかけてお一人お一人に向き合う時間が取れない所もありますが, その方の目を見てしっかりと話を聞き, その方の想いをくみ取れるように努力して行きたいと思っています。
- 54 入居者の方に対して行っていることが, 変なことだ, 間違っていることだ, と自覚していないスタッフが多い。「何がいけないの?」と思っている表情をする。今日の反省点をどのように伝えてゆくべきか…考えていきたい。
- 55 自分の役割は今日のセミナーと皆の意見から得たことを伝えること。相手の立場に立ち, 考えを改め気づかされました。是非活かしていきたい。どのような障害があるかを学習したい。
- 56 当事者様の想いを引き出す等, 活かしていければと思いました。

- 57 利用者の接し方,トラブル時の対応の仕方。スタッフが先に先に考えるのではなく,利用者に聞く。一緒に考えてみる。押し付けにしないケア。
- 58 今日の研修を自分達の元へ持ち帰り伝達する役割を果たそうと考えている。一人が分かっているだけでも何の意味もない。「自他共栄」にたどり着けるよう,職員の意識や気持ちのゆとり,本来の目的である,利用者主体の目線を考え業務にあたってほしい。
- 59 居宅のケアマネをしています。家族の不安や困っていることに着目することが多くなっていました。利用者本人は毎日の生活の中でどう思っているか,したいことは何かということに立ち返り,また,本人にとって必要があることは,理解してもらえるように努力して,関わっていきたいと思います。
- 60 利用者さんともっと話をしようと思う。今までみえなかった部分が見えるかもしれない。良い気づきになるかもしれない。介護経験の長い職員の意識改革が必要となるために,話し合いを設けていきたい。
- 61 自分でリハビリを希望して来ている人もいれば,やはり家族の希望で来ている人もいる。そういった方にもまずは話を聞く。その上で,何故ここに来るのか,どういった場所なのかどんなふうに過ごすのか,何をするか,本人が理解してもらえるような説明をする。本人の思いも受け止める。
- 62 落ち着いて話を聞きながら,相手の気持ちを理解していく。
- 63 アセスメント等にケアマネジメントの場面,虐待ケースの対応。利用者をより深く理解する事に活かしていく。
- 64 ビデオを観て具体的に皆さんと話し合え,同じような意見が多々出た事。
- 65 一つ一つのケースを丁寧に,主体は当事者であり,支援者ではないことを頭に入れて,実践していきたい。
- 66 忙しくても出来る限り,時間を調整して利用者さんとの時間を作り,まずはゆっくり話をしようと思った。
- 67 当事者に目を向けて,思いを知っていこうする自分を伝えていきたいですし,当事者の思いを受止めれるようにしたいです。
- 68 丁度新しい職員が入職し,教える立場として,利用者様本人の希望やお話等を聞きコミュニケーションを取ってもらい,信頼を得るという事に活かしたいです。また,ベテラン職員も今一度教える事により,信頼関係を構築できたらと思いました。
- 69 意向を確認する時に「まつ」事に意識していきたいと思います。
- 70 その方がどのような状態,状況においても,自分で決定できるように職員が引き出せる場面や状況を作っていくことが必要だと思いました。
- 71 在宅での支援で,権利擁護として関わるケースも多くあるため,常に「ご本人にとって」という視点を持ち続けていきたいと思います。
- 72 行事や活動を決める際,当事者の意見を聞くようにしたい。
- 73 カンファレンス時は当事者にも出席していただく。当事者抜きで支援を進めない。当事者抜きで支援の方向性を決めない。明日から実践し少しでも変えたいと思った。
- 74 自分の担当の入居者とコミュニケーションを取り,認知症でも当事者の考えている事等を聞き,今後のサービスに役立てていきたい。

- 75 施設介護の中で、1対1での本人の思いに寄り添う対応が難しい。日頃の業務が職員視点でどれだけ考えられているかを知るところから始めたいと思う。
- 76 今日得た事を他職員に伝え、皆で考えていく。
- 77 担当者会議やアセスメント時、本人の声を聞いていく。当事者主体を意識し、本人の声を聞き、ゆっくり時間をかけて、静かな環境で話をしてみる。また、難しい事はさりげなくサポートしていきたい。
- 78 今まで相手の方の事を理解していた様に接していたが、よく話を聞いてその人の事を理解する事に努めて行きたい。
- 79 利用者を理解する事で信頼を得て、自分らしい生活を送ることが出来るように支援する。
- 80 現場で与えられたツールによる本人様の情報収集の他にも、関わり方を変えることによって、得られた本人様にとっての課題をもとに、自由意思に基づく自己決定の機会を設けられるよう努めていきたいと思えます。
- 81 これからも言葉遣いを意識したい。本人の困り事を捉えて、できれば本人も一緒に（本人の言葉も聞いて）改善策を考えたい。本人のやりたいこと、出来る事に目を向け対応したい。家族にもその事を伝えたい。
- 82 今までは、ご家族様の話を聞く比率の方が多かったので、利用者の方を中心に話を聞くようにします。
- 83 相手を認める。受け止める。尊重する。相手の話をきちんと受け止め、その人の立場になって考えるように努めたい。
- 84 他スタッフに注意する際に理論立てて指導する事が出来る。
- 85 認知症の人を見るのではなく、当事者を見る事。周囲の関わりにより、良い環境を作ることが出来るために行動を振り返り対応したい。
- 86 地域包括支援センターでは、ひとり暮らしの高齢者や家族の中で孤立している高齢者からクレームのような「困った」長電話が来ることがあります。当事者主体の視点でいえば、本人も困って不安で電話をしているのであり、一人の人として認めてほしいという気持ちが大きくて電話をしているのかなと思うため、その人を理解しようという気持ちをもって関わりたいと思いました。
- 87 つるさんのビデオ演習を受け、言葉使い、当事者の思いを受け止めながら日々の関わりに実践していこうと思いました。
- 88 相談業務をする上で、改めて発言の強い周囲に惑わされず、当事者の声を聞く。
- 89 まず自分からももう少し勉強しなければならないと感じました。
- 90 本人をよく理解した上でよりよい支援をしていけるようにしたい。
- 91 誰が主体となっているのか「当事者が主体」ということを意識して支援していきたい。
- 92 よりそい、支えあえる関係をつくっていきます。
- 93 一瞬でも一時でも良いから、手を止めて、向き合い、話を聴いてあげる。手をかけてあげる。→これらを心掛ける。
- 94 当事者が話し掛けた時、作業中でも、区切り、目と耳を傾けて聴き、不安を取り除くようにしていくこと。

- 95 相手の想い,感情に近づこうと努力を惜しまず,業務と対峙していきたい,頑張ってみます。
- 96 まず第1段階として,礼儀と尊重を現場に落とし込みたい。担当者会議ではスタッフが困っていることが話の中心にならないようにしたい。
- 97 在宅では,本人,家族の意向が不可欠です。本人から意向が聞き取れないことも多くあります。家族からの支援が必要で不足してしまえば最悪のことになりかねません。金銭的な面を考えながら本人の望むことにつなげていければと思う。
- 98 利用者にミーティングにも参加してもらいコミュニケーションを大切にする。
- 99 必ず本人の話をきく。その話がつじつまが合わなくても家族の意向と違ってても,聞くことで思いをひろいたい。
- 100 訪問時,本人の話を話す時間を作り,会話の中から情報収集を行い,信頼関係を築いていきたいと思います。
- 101 どんな行動障がいがある方でも敬意をもって接していきたい。
- 102 職場内で実践していることへのふりかえりに役立てることが出来そうです。
- 103 鈴木さんが話されていたように,まずは本人の声をしっかり聴くことが大切と思う。何気ない話でも情報が含まれている可能性があるので,事業所のスタッフに記録の記入の意識を持っていただくようにする。同時に聞く力のアップや伝えられた内容の解釈がどれだけできているか確認し,不足している場合は共有していけるようにする。
- 104 社内でプチ研修として今日の内容をフィードバックする。
- 105 障害や認知症はその人個人だけの問題だけではなく,その人をとりかこむ環境や周りの支援者の関わりによっても大きく左右されることを強く感じたので,個人を知る,理解するという意思を持ちつづけていきたいと思った。
- 106 私にも当てはまってしまうことが,声掛け,言葉使いだと思いました。当事者は私よりも年齢が上の人が多く,一般的に考えたら大変失礼な発言をしてしまっているときがありますので,気を付けていきたいと思います。
- 107 アセスメントをする上で認知症の本人であったりすると,どうしても家族からの聞き取りが多くなってしまっていたが,しっかり本人を見ていく,本人としっかり話す,相談するという意識をしてやっていきたい。
- 108 毎日の仕事の中でなあなあにならなくなってしまっていた事など,もう一度振り返り,当事者の気持ちにならって添った支援を考えていきたい。
- 109 常に意識して実践に当たることを心がけます。
- 110 個人の持っている障害から日常生活での困難な事を当事者目線で考えていく。また本人に話しコミュニケーションを図ること。改めて重要性を理解したため,アセスメントの内容を再検討できる。
- 111 本人と話す,聞くことを実行する。実際の現場で,声掛けの不足,無意識での本人無視など客観視して,ケアを見直す機会をスタッフの研修等通じて全員で再確認,実行したい。
- 112 支援者間で処遇を検討しがちだが,じっくり本人の気持ちに耳を傾けて対応していこうと思う。

- 113 自らも行き、且スタッフに広める。おざなりな対応は、介護をされる側、する側双方にとって不幸である。
- 114 現場で直接利用者さんと接する職種なので、当事者の思っていること、要望や気持ちを傾聴し、当事者の気持ちになって(自分に置き換えて)一緒に対応を考えていくように努めようと思っています。
- 115 もっと一人一人時間をかけて話をし、理解していける様、スタッフ一人一人に心がけて時間を作る。
- 116 出来るか？出来ないか？それを議論する余地はあるものの、常に最大限の「努力」をする。
- 117 相手から自分を語ってもらうような取り組みをする。
- 118 研修をしていけばいいなと思いました。施設内の自分たちの自己満ではなく、本人への希望を大切にしたいと思いました。
- 119 今まで、利用者様の声に耳を傾けたつもりでしたが、実際、家族の大変さの方に気をとられ、本人の気持ちを十分理解して介護サービスの利用を進めることが出来ていなかったのではないかと振り返ることが出来ました。今後は、利用者様の言葉だけではなく、行動も理解できるよう、今回の講義で学んだ事を活かしていきたいと思っています。
- 120 同じ考えをもって行動していく為には、一人ではむずかしい。職員一人一人が実行していく為には何年かかるだろうか。進めていく上で自分自身がその職場で働いていけるかも不安。
- 121 アセスメント。本人からの思いを受容するように、話をすること。本人の思いと専門性を取り入れて、支援者主体にならないように、ゆっくりと時間をかけて。
- 122 相手を理解して接する心情的なところも大事ですが、福祉サービスであり、サービスを受ける権利、サービスを提供するギムがお互いにあることを念頭に置いて仕事をしてきたい。
- 123 時間をかけ丁寧に利用者の声を引き出す事。
- 124 自分自身の頭・感情をクリアにする時の方法として。
- 125 伝えていること＝伝わっていること ではない時もある。伝えたいことを伝えられるよう、相手に合わせてケアをしていけたらと思います。
- 126 どんな些細なことでも当事者の声に耳を傾けること。
- 127 本人主体で話を進めてゆけるよう今後、現場で実践したいと思っています。本人の言葉で思いを引きだしてゆきたいです。当事者主体、常に頭の中で思い浮かべられればと思います。
- 128 これまでも行ってきた様々な取り組み(研修会)の中で、全体職員へ追加できるところは追加していければと思います。
- 129 利用者としっかりコミュニケーションをとる。
- 130 利用者の意見を聞く。肯定する。礼儀と尊重を考えた言葉使い。利用者のことについては、本人からしっかり話を聞いて理解する。
- 131 日々に思いながら勉強することだと思います。顔を見ながらお話しすることが一番。
- 132 利用者様との接し方についてよりよく行うことができそうである。

- 133 担当者会議等で利用者様の何かを決める際、今回学んだ当事者のことは当事者と話し合うということを参考に今後は会議前に利用者様と話しをする機会を作りたい。
- 134 今回ビデオを客観的に見たことで、気付く点を多く発見することができたと思う。自身の職場でも、一歩引いて、冷静に現場を見て、改善すべき点を見つけていきたい。
- 135 代弁するつもりが支援者主体になりがちな日常なので、ゆっくり向き合う心と時間の余裕を持ちたいと思いました。
- 136 活かしたいとは思わない。現状の現場では混乱を招くだけ。はっきりそれをやったところで何もならんし、金にもならん。
- 137 認知症の方に対し、ケアマネジメントの中で当事者より家族からアセスメントをしていたことを踏まえ、今後は言葉にならないかもしれないが、本人の思いをきき取る努力をしていきたいです。
- 138 その方のためにと思っただけでやってきた事が、違っていた事や仕事を早く進める為に、見えないふり、気付かないふりをしてなかったか？もう一度見直していきたいと思いました。

Ⅲ 「当事者主体の支援」に関連して、更に学んでいく必要があると考えることは何ですか

- 1 当事者主体にならない場面、ならなかった場面を思い出して、自分自身の癖、良くない所を見つけ出す習慣や訓練。
- 2 自分の事業所でやっていることが当たり前なのか、改めて考え直す必要があると思います。他事業所の取組や社会一般的にみてどうかということを考え、本人主体の生活というものを考えていければと思う。
- 3 一人一人の行動が同じではないので、ストレス等はどうのような行動をとると分かるのか、見守りつつ楽しんで生活していけるよう努力をしたい。
- 4 職員の当事者主体とは何かも研修する必要があると思いました。
- 5 緊急性の判断やいわゆるジレンス問題について難しさを感じる。
- 6 病気の理解、関わり技法 etc
- 7 当事者に話してもらえ（教えてもらえ）ような自分になるための努力。当事者の可能性を伸ばすことが出来るような関わり。
- 8 一人よがりな視点に陥っていないか。礼儀を尽くすこと。相手が理解しやすいように勉強すること。伝え方を工夫するために、どんな仕方があるかアンテナを高くしたい。
- 9 認知症の症状、障害によって何が起るかを学習する。認知症患者の本などを読み、理解を深める。
- 10 研修を受けたり、現場のスタッフと話しをしていると、今日研修で学んだような「当事者主体の支援」をしていこうと考えるが、いざ利用者様と関わるとなかなかそういった支援ができていないように感じています。今日学んだことを忘れずに、実際の現場で活かしていければと思います。
- 11 アプローチの方法の部分で、今自分たちが行っている支援はRBAの考え方からズレたところにあるのではないかと思います。自分達も事例検討等で、普段のアプローチによ

る支援の考え方を考えた後、RBAによる考え方で改めてその差を比較してみる等、していければと思います。

- 12 認知症になった方の気持ちを理解するための手段と方法をもっと知りたいと思いました。
- 13 もっと当事者権利等を踏み込んだ視点で「RBA」を勉強したいと思います。
- 14 学んだことを職員で共有して、意識して関りを持てればよいと思う。
- 15 現在包括支援センターの立ち上げに取り組んでいます。今までMSWとして医療での相談業務に関わってきましたが、長年介護保険についてや、在宅、地域という場面で仕事をしていくのに認知症の知識や制度等の勉強が必要だと強く感じました。
- 16 当事者主体の支援はケアマネジメントの考え方と同じ、当事者の言葉や気持ちを聴く力や理解する力を鍛えていく必要がある。
- 17 支援者が本人を理解するための姿勢や態度を学ぶとともに、客観的な視点に基づいた本人理解をすることが必要だと感じた。
- 18 当事者主体の支援でどこまで本人の希望に添っていけるか？本人の判断能力を見極めた上で対応しないと危険な場合もあると感じました。
- 19 当事者に聞くと事が本当に不可能な方にも、どの様な方法で少しでも確認する事が出来るかを探る事が必要と考えました。
- 20 支援者としての自己評価や振り返りの仕方。当事者との関わりをもっと多くもっていくこと。
- 21 当事者の気持ち、不安を理解するため言葉を引き出すにはどうするか。
- 22 言葉での伝え方を学んで行きたい。
- 23 言葉にならない想いを分かってあげるために出来ることは何かを考えたい。その前にちゃんと顔を見て話しをしてみたいです。
- 24 他人には分からないことがいっぱいあり、「～ではないか」と思われてしまう当事者は、とても迷惑している。いかにして当事者に語って頂くかを学ぶ必要性があるかが分かりました。
- 25 コミュニケーションが困難な当事者に対するアドボカシー。
- 26 障害に対する支障を察し、引き出しを増やす事で、本人に選択肢を提供できるようにしたいです。（専門性の向上）
- 27 当事者がする行動力に対応するにあたって、病気や障害の知識があるにこしたことは無いと感じた。本日のような研修で得たことを自分の中に落とし込み、他の職員に上手く伝えていくことも必要だと感じました。
- 28 日々業務にも自分自身余裕を持ち、当事者主体の介護を考えて行きたい。
- 29 今日紹介していただいた本をまずは読んでみようと思います。
- 30 してあげたい思いが強くなっていないかを常に意識し、本人の思いを見れるように心掛けていくこと。
- 31 更なる権利擁護について
- 32 本人の事は本人に聞いて、希望に添えるか。アセスメント第一に考えていけたらいいかな？
- 33 まだまだ学びたい事が多いですがBRAに関してもっと話を聞いていきたいです。

- 34 認知症の症状についてもっと詳しく学ぶ必要がある。当事者主体で支援している事例と悪い事例。今日のような動画でワークするのが効果的だと思った。
- 35 話を上手に引き出す為の工夫や、他スタッフとの連携の取り方等も学びたい。利用者も自身も感情が落ち着いて、会話が出来るようなメンタル的な視点についても学びたい。
- 36 介護していますがもっと病気の事等勉強していきたいです。
- 37 RBAについては、また別の機会に学んで行きたい。介護・看護・福祉の場においても、心の関わりだけではなく、礼節、マナー、接客、サービスの質に対して、しっかり取り組んでいく行く必要性を感じた。
- 38 当事者の話を聞きそれを家族や周りに伝えるために専門知識を更に学ぶ必要があると思った。当事者の障害を理解する努力も同時に必要だと思った。
- 39 認知症の方々の接し方。対応する時の留意点等。（認知症の方への）
- 40 認知機能に障害がある人の気持ちの理解について学んでいく必要がありました。
- 41 当事者主体による支援＝権利擁護
- 42 「当事者～」本人の自己決定と決める権利＝当たり前なのに「本人の最善の利益」「命」必ずしも実行できないし葛藤する。
- 4 3 権利擁護, 成年後見が果たす役割。支援している人の質の問題。
- 44 当事者との関係性。ニーズ, アプローチの仕方等, 当事者に合わせた支援方法, そういう症状の方への理解を深めていく必要があると感じた。
- 45 社会福祉士として, 権利が守られるように本人の声を拾い, 自立した生活が出来るように, 支援していくこと。（自ら潜在力を実現するような支援）
- 46 当事者の目線の活を学び, 知る事から始めれる必要がある。
- 47 当事者とではなくその家族と色々な事を決める事が多いのが現状なので, RBAをもっと浸透させて頂きたい。
- 48 清山会グループで取り組む職員資質向上のためにプログラムに大変感銘を受けました。本人主体の支援についてどのような研修の開き方があるのか学びたい。
- 49 今まで障害については大きなくりで分けていたので, 認知症状でもどんな障害で困っていて, どんな解決方法や考えがあるかを学んでいく必要があると思いました。
- 50 出来ないところだけでなく, 出来るところを見ていく事が大切だと思いました。
- 51 施設に新しい入所者が入所してきたとしても, その人が生きてきた生活歴やアセスメントを通じて, 本人にも気持ちを聞いたりして, どこに生活の困難さがあるかを見極めるように, 日々の支援の中で努力していきたいと思います。
- 52 当事者側からの発信, 思いを知る。
- 53 当事者の方はお一人お一人違うことを肝に銘じて, まっさらな気持ちでその方に向き合っているか, しっかりとその方を理解しようと思えるか, 意識しながら実践を重ねて行かねばならないと思いました。
- 54 「RBA」について調べてみたい。パーソン・センダードケアとどう違うの?しかし, 日々変わっているのだと思った。
- 55 障害をもう一度勉強する必要があると感じた。認知症の本も読んでみたい本が見つかりました。

- 56 関わる人達が皆で話し合う事。ゆっくりとした時間を設ける事。この上で当事者様の生活や関わりをどのようにすべきかを学ぶ必要がある。
- 57 利用者の不安と取り除けるケア。
- 58 様々な状況の方を支援できるよう、色々な手法を学んでいきたい。
- 59 在宅において、本人の生命維持が大事ですが、本人の望まない場合の対応の仕方等、更に深めた勉強をしていきたいと思います。家族の理解も得られたらという思いもあるので、何かヒントになることを学びたいです。
- 60 認知症という病気を知ること。
- 61 ノーマライゼーションの流れ。認知症状の復習。
- 62 コミュニケーションスキル。障害についての理解。相手に理解してもらえるような伝え方。
- 63 人権について。老年心理。
- 64 当事者と言うより家族主体になってしまっているの、せめて本人を交えてのアセスメントを行い、プラン作成が必要となり、それを直接携える。介護員に伝え、どう対応していくかが課題であるので、一つでも多く本人の声や希望、要望に応じて安心した生活を送ってもらえるように出来たらと思う。
- 65 当事者の置かれた状況や環境をより理解していく為に、制度・法、アプローチ法等、様々な知識を得る必要があると考えた。
- 66 認知症で自分の不安やニーズを十分に訴えられない人の気持ちをくみ取る技術。
- 67 基本的な個人の尊重から学んでいき、当事者の気持ちに寄り添えるように学びたい。
- 68 「当事者の安全」を学びたいと思います。今回のビデオにもありましたが、声掛けのない支援や移乗は、相手を不安にし、あらぬ事故を招きかねないと思いました。
- 69 虐待について。自己決定について。障害の理解について。
- 70 その方の尊厳を保障するためにRBAに基づいて、行動していくことが必要であり、それを行うための方法を学んでいくことが必要だと思いました。
- 71 障害をお持ちの方が年齢を重ねて高齢者となった際に、元々の疾患についての理解がないと、関わりの中で、支援が難しくなってしまう（障害と高齢の制度の違いも含む）ことがあるため、より学んでいかなければならないと感じています。
- 72 意見表出が十分に出来ない方の思いをどのようにくみ取り支援に繋げるか考える事（学ぶ事）
- 73 面接技術。待つ事。当事者の意思を引き出す技術。
- 74 意見を聞く事。目を見て話す。
- 75 これが正解と決まったものがあるわけではないので、自分のケアの関わり方を随時振り返るものなのかなと思った。他職員への伝達も難しい。それぞれ、感性や考え方があるので自分はどうのようなケアをしたいのか考えるところから必要がと思う。
- 76 当事者との関わり方。
- 77 どこまで本人主体として考えて行けば良いか。
- 7 8 施設全体当事者主体の支援について考えて行きたいかまずは自分が基本的な当事者の支援の基本を考えて、次の段階へ進みたい。
- 79 「対人援助の関係性」理解していたつもりが見失っていたことに気づいた。

- 80 現時点において、知識でしかない為現場で活用する方法を探っていくべきであると思うし、チームとして関わっていく為に利用者より得られた情報をいかに共有、活用していくかは更に学ぶべきと感じた。
- 81 本人の思い等、紹介していただいた本を参考にしたい。法律について学んでいく必要がある。
- 82 家族同席で面談を行う時、いかに本人からの話を引き出せるか。
- 83 障害の理解。当事者の話を聴くスキル。
- 84 生活歴などを掘り下げて調べ意思疎通困難な方でも本人が望む対応の選択肢を増やせるようにしたい。RBAを深く学び仕事に役立てていきたいと思った。
- 85 「RBA」を知らなかったため、そのことについて学びたい。
- 86 まずは当事者の書いた本を読んだりお話を聴いたりしていきたいと思いました。また、意思表示が難しい方に意思をどのようにくみ取り、どのように尊重していくかも学んで行きたいと思いました。
- 87 当事者主体の支援をしていく上で、当事者の言葉にならない思いを読み取っていくことが、まだまだ難しいので、これからも更に学んでいく必要があると思いました。
- 88 地域住民の方、職場、家族、等々に対して気づかたり、礼儀を通したり、当り前にしていることをきちんと理論立て、言語化できるようにしたい。
- 89 まずは基本的なところから学ぶことが必要と感じました。
- 90 家族が「困っている、どうにかして欲しい」との希望があると家族よりになってしまうことがある。家族の話に耳をかたむけつつ、本人にとっての支援になるにはどのようにしていったらよいか。
- 91 「その人」を知るための知識(専門的な)だったり、関わり方。
- 92 思いを伝えられなくなっていく障害を持つかたの代弁者が、ひとりでも多く育つように、心のあるケアが続けられるように、チームで考えやおもいを共感しあっていけるようにしたいです。
- 93 認知症については、ある程度理解できたが、障害者についての当事者主体の支援が未知の分野なので、是非、またの機会に学びの場をお願いしたいところです。
- 94 なれあいになっていないか、自分で自覚し、また同僚にも注意すること。言葉づかいや当事者のサインをのがさず、聞き、不安を取りのぞくことで安心して生活ができるよう支援すること。
- 95 ”当事者”とかかわる人々の権利、守られるべきものについても”当事者主体の支援”を進めていく上で考えを深める必要があると感じました。
- 96 自己理解が大事だと思う。対人援助職として、まず自分のことを深く理解したい。
- 97 利用者の立場もちろん、こちらはプロであるという意識を常に持たなくてはならない。大変だけれどその方を知ることによって理解し、尊重して接することができると思う。
- 98 今回は事例でケアや対応の悪い面をみて、気づきを得たが、良いケア(対応)の事例があれば、どんなふうに本人が変わっていくのか、スタッフがかわっていくのか見てみたい。
- 100 コミュニケーション能力を高めていくこと。しっかりアセスができること。本人の目線、気持ちで考えられる能力が必要。
- 101 認知障害のある方の本意を引き出すための知識と技術

- 102 当事者主体を実践していくにあたり、障害(壁)になっていること(法律や規則)にどのようにアプローチして克服していくのかを考える必要がある。
- 103 RBA とパーソンセンタードケアの違いがあるのか、あるとしたらそこはどこなのか、今回の資料の 11 ページを見直し、2 つについても一度確認を取り比較してみたいと思う。おそらく立ち位置が違うと思うが、曖昧になっているのもう一度学ぶ必要があると感じた。
- 104 事例に基づくグループワークをこなすことで、より深く学べる。権利(権理)の歴史について
- 105 会話だけでなく、その方の行動からも症状が分かれるような洞察力をつける。
- 106 当事者だけを見るのではなく、当事者の環境をよく把握していかなければならないと思いました。
- 107 当事者を理解しようとする力を磨いていきたい。支援が必要になった問題ばかりに目を向けるのではなく、そうなった原因をしっかりとみれる力を養っていきたい。
- 108 当事者主体の支援、考え方や支援方法などの共有、当事者主体と家族の意向が違う場合。
- 109 このような機会など、時々自分自身をふりかえる場が必要だと感じました。
- 110 病気、障害の知識がなければ、当事者のことは理解できないのだと感じた。
- 111 本人に伝えるべきことと、伝えないことが本人にとって良いことであると考えた内容について、一律にではなく個別にしっかりと考えていく必要がある。
- 112 セルフネグレクトをしている方への対応
- 113 認知症を主として、知識を得る。それを踏まえての対人コミュニケーション(当たり前の)を忘れないようにしなければならないと感じた。
- 114 当事者の要望が、反社会的なことだったり、到底かなわない無理なことを希望していた場合で、それを言葉による説明では理解できないケースの対応がわからない。
- 115 まだまだ認知症について知らない事が多いと感じたので、もっと勉強をする必要があると思う。
- 116 時代に合わせて利用者様の顔ぶれや、生きた時代が変わることから常に学ぶ必要はあると思います。
- 117 ついつい支援者主体になっている。しみついている。まずは意識することから始めて、当事者主体のより良い関わりが持てるような、支援をしていけるようになることが必要。
- 118 認知症重度で本人から意見が聞けない時の対応。(家族の意向を取り入れることが多いから。)
- 119 利用者様の病気を一概に「認知症」ととらえるのではなく、ご本人の歴史を含め、どういった病気でどういった特徴があるのかを理解する必要があるのだと思いました。
- 120 当事者を理解する技術。顔を見る、話を聞く、そばに居るだけで本人の考え、気持ち、意思表示が的確にできるだろうか。
- 121 RBA についてもっと詳しく知りたい。認知症の方の理解、常にその人を見る大切さ、対人援助を行う上では常にバイスティックの 7 原則を意識する必要がある。

- 122 感情を表出できる方への理解を深めることができたが、医療的ケア等が多く、感情表出の乏しい方についての本人理解をどうしていったら良いか考えていきたい。
- 123 礼儀と尊重を学んだ上で、地域の常識と施設の非常識をより精査すること。
- 124 個人的にですが、さらに学ぶというより定期的に再確認することが必要だと考えています。
- 125 「言葉にならない思い」を聞いているか？日々の積み重ねがあって出来ること。相手の気持ちを理解して、知識だけではなくコミュニケーションの力もつけていきたいです。
- 126 コミュニケーションスキル。「当事者主体の支援」に対する知識
- 127 本人が何に困って、何が出来るのかをもっともっと共有できるように学んでいきたいと思います。
- 128 重度化重症化高齢化重複化の中で、ご本人の意思疎通、確認、決定支援がますます困難になってきています。それに合わせて、私たちも研鑽をする必要があります。様々なスキルの取得は不可欠考えます。
- 129 利用者の経歴や家族構成など。
- 130 意見を聞く時の方法、聞き取り方、態度や雰囲気作り。
- 131 利用者様を思い、よく見て観察をし考えて行動することを一番に考えること。立ち止まり振り返り見ること。
- 133 認知症の症状や特徴。
- 134 利用者を理解する努力をする為にも、まず利用者との信頼関係の構築を個別化でやる必要があると思う。
- 135 現場での取り入れ方を学びたい。業務優先になりがちな介護の現場での「当事者主体の支援」…特に意向の確認の方法。
- 136 主体とはいっても、施設では管理、管理の現状。経営者に話せ。たかが職員に何も求めるな。
- 137 認知症の方の日々の生活での支援(見え方、感じ方等)をできたら疑似体験し、ゆっくり時間をかけてアセスメントできる技術を学びたい。
- 138 身につくまで、時間がかかるだろうと感じるのと、陥りがちな失敗なども、事例として、知りたいと思いました。

IV その他、この研修で感じたこと

- 1 ビデオ演習の内容は、ごく当り前に施設内で起きている事。現場に人は、何がどのように良くないか気づいていないので、今回のような研修で、当事者主体の考え方を学ぶ大切さを実感しました。
- 2 色々な専門職や違う職種の人とグループワークを行い、様々な視点から見ることができました。
- 3 グループで話合い、色々な話を出来たのは良かった。
- 4 現場は意識が高いですが、本来のトップである経営者等にも研修してほしい。
- 5 清山会の取組は素晴らしい。法人全体の意識改革。

- 6 人権というテーマは堅苦しいイメージがあり、中々人に伝える事は難しいですが、誰にでも権利はあり、価値ある存在であるということを少しでも多くの人に理解して頂けるように、日々業務で意識して取り入れて行きたいと思いました。
- 7 本人と話し合う努力を惜しまない事。当事者主体を意識して支援すること。
- 8 入所施設でどうしても慣れてしまう対応になりがちですが、初めてあった人にも同じ対応をするのか常に念頭に置いて実践して行きたいです。ありがとうございました。
- 9 ビデオの中の職員の対応の仕方を見て、自分自身がどのように関わっていたか振り返ることができた。少しでも気持ちに寄り添える関わりをして行きたい。
- 11 資料P3からP5について私達は一人の人間として、そう扱ってもらうことが当然思う一方で施設に入っているサービスを利用している、病気や障害がある。という方を前にして、何故その意識が当りに通用しないのだろうと思いました。どこかで「こっちはしてあげている側」という気持ちがあると思うと、自分を含めて情けなく、悲しく、恥ずかしく感じました。
- 12 病気を治す為に症状を本人に聞くのと同じ様に本人に聞くことの大事さを学ばせて頂きました。
- 13 「RBA」という言葉すら初めてききましたが、もっと詳しく内容を聞きたかったです。きちんと理解してから演習をしたかった。演習よりは実践例を聞きたかった。
- 14 当事者の事を理解しようと努力することが大切だということが分かりました。一人一人の意思、表情、言葉が何を伝えたいか、理解する必要があるということ学びました。
- 15 大きな意味で、基本姿勢を学ぶことが出来ました。グループワークの時間をもっと多く。
- 16 当事者主体の支援は権利擁護となると感じました。「介護者」の立場での考え方は当事者にとって、もっとも迷惑な事と感じました。本日はありがとうございました。
- 17 当事者を理解するため、その人を知る努力をすると共に、認知症等に関する知識を更に深める必要があると感じた。
- 18 長年福祉の世界にいると自分の判断が正しいと思いついでしまうことが危険だと感じました。また、新しい気持ちで取り組んで行こうと思うきっかけになりました。ありがとうございました。
- 19 知識を深めていきたいと感じました。
- 21 人が多すぎ窮屈、暑い。参加者名簿もプライバシーでは？
- 22 「一人の人間として認めてもらいたい」誰もが思っている事を改めて痛感しました。
- 23 権利擁護のセミナーでしたので、虐待、金銭トラブルかと思いましたが、当事者（認知症）主体の話も聞いて良かったです。
- 24 当事者の障がいや支障だけに目を向けてはいけなない。その人の言葉になりたい、想いを聞く必要がある。関わりの中でその人の尊厳を認めて肯定的に関わることが大切と感じました。
- 25 改めて目にしたバイスティックの法則だが、「当事者は」の部分を「私達は」に置き換えるとなぜかしっくりくる。
- 26 VTRのGHの職員さんの対応を2回観てとても辛く切なく、泣きたくなりました。タイトなスケジュールの中でとても濃い内容の研修でした。ありがとうございました。

- 27 包括や施設の方と意見交換することができ、大変充実した研修となりました。
- 28 アルツハイマー病の事をもっと勉強していきたいと感じました。
- 29 皆さん同じようなことを感じ、悩んでいるんだなと心強く思いました。
- 30 呼び方など気を付けてたい。
- 31 もっとグループワークで話し合えると良いと感じた。ロールプレイ等も実演したかった。
- 32 自分の振り返りが出来ました。温かい言葉でちょっと心が軽くなりました。スタッフ指導に活かしていきます。
- 33 今回学んだことを自分の中だけではなく、職場の職員に伝え、皆で統一した当事者主体の支援をしていきたいです。
- 34 今後も行政職員と参加し共通理解を図りたいです。
- 35 自己満足のケアになっていなか？と考えてしまう。忙しいと自分勝手な理由で仕事（ノルマ）をこなしていたかも？反省。研修や勉強にも積極的に参加しようと思った。
- 36 実際利用者様に不安を感じさせていたように思い反省しています。
- 37 文章や言葉にすれば、ご本人を尊重する、主に考えることが出来るが、それを毎日 365 日実践していくことの難しさを非常に感じた。
- 38 現場で働くスタッフにこの場に参加してもらいたいと思う。
- 39 普段良かれと思って実行していることが、利用者様にとっては押し付けになっていたのではないかと考えさせられる場になった。職員の目線で行っていることが多いし、自覚していない、出来ていない人もいる。日々業務に追われ、冷静にその方と向き合うと言うことを（機会）作れていないと改めて実感した。
- 40 権利擁護は日々の関わりの中で出来る事だと理解できた。
- 41 日々のケアマネジメント、相談援助の当事者の関わり方について、振り返ることができた機会であった。
- 43 グループワークをしたことで、他者の考え、視点を知ることが出来、自己覚知が出来た。
- 44 権利、支援という言葉を知ると難しい感じがしたが、普段自分達が悩みながら行っていることを、常に考え更に良くしていく様に努力する事が必要だと感じた。
- 45 支援を受けて能力が発揮出来る。支援を受けて自己決定出来る。支援を受けて当り前の生活が出来る。
- 46 もっと早く受講したかった。研修内容を持ち帰って共有したい。
- 47 日々の業務に追われていて、当事者とのコミュニケーションが取れていなかった事に気付きました。理解しようと努力は必ず想いは通じると思うので、これから現場で実践できればいいと思います。
- 48 ご本人の想いや言葉を知る。障害によって生じている不便さ、不安を知ることが、認知症だけではなく、多くの支援に繋がると感じました。
- 49 時々研修に出て考え方を確認したり、色々な意見を聞けることの有難さを感じました。
- 50 ケアの方にも見せてあげたいと思った。

- 51 1 いかにか当事者の思いや自己決定が大切だという事を実感しました。演習が多かったですが難しいことも無く、他事業所の方との意見交換の場を設けていただいた事がありがたかったです。
- 52 家族主体の支援となっていることも多く反省した。
- 53 勉強になりました。ありがとうございました。
- 54 情報は自分から取りにいかないとやってこない。「認知症」についても日々変化している。まず関わっている方の人権を守ってゆくべく努力してゆきたい。
- 55 他事業所の方の意見は大変参考になりました。また、機会を作っていただき意見交換できればと思います。他の職員も参加してほしいです。
- 56 プラスになる事は活かしていきたいと思いました。
- 59 同じグループで話した中でビデオを観て「何が変なのか分からない」と言う方もいました。MSWの方でしたが、職種や立場でもその人に対する見方が違ってくると言うことに、様々な職種の方にこういう研修を受けてほしいと思いました。
- 61 専門性が高く、視点やアセスメントが自分の未熟さを感じました。また、尊重、尊厳を大事に！と思っていたのに、慣れ合いが生まれていたのではないかと思います。気持ちを切り替えて従事したいと感じました。
- 62 どの様な人に対しても、当り前の事を当り前に出来なければならない。グループワークの後半が施設の対応方法についての話が多くなってしまったので、もう少し広い視点で考えていかなければならない。自分の判断が正しいとは限らない。
- 63 当事者と話をする。話を聞く。
- 65 題材となったビデオの中では、当事者対し、どう支援することになったのか。
- 67 とても難しいけど、自分だって何を伝えたいのか分からない状態だったら、近くに理解者、代弁者がいたらとても心強いだらうと思いました。
- 68 自分が今働いている施設の教えが正しかったと再認識しました。また、他業種の方のお話を聞いて、こういうアプローチもあるのかと勉強になりました。
- 69 自分の時間を削って勉強していくことが必要。それによって何か発信していける事もあるのかなと感じました。
- 70 ビデオの内容を他人事とは思わず、常に自分の言葉や行動、態度に対し問いかけていく必要があると思いました。
- 71 頭では理解していても実際の現場だと中々思うようにいかないとの声も聞かれた為、支援者がこの視点を忘れないよう意識していきたいと思います。
- 73 鈴木さんの講義がとても素晴らしかった。今回の研修に参加してとても良かった。講義の中で紹介された本も読んでみようと思った。
- 76 もっと学びたいと思った。鈴木さんの話が分かりやすかった。
- 77 支援者主体になっている所もあり反省しています。もっと勉強していく必要がある。今日学んだ事を現場にも伝えていきたい。
- 78 また、機会があれば参加し自分の知識を高め、施設で生活している方の支援に役立てたい。
- 79 認知症の方との関わりを見直すことが出来ました。なるべく寄り添い声を聞いて行こうと思いました。

- 80 ターミナル期の利用者の増加が見込まれており、より利用者主体としてもって行くにはどうすれば良いか考えていたが、丁寧な聞き取りにより意思確認が出来る可能性があると感じ、今後の参考となりました。
- 81 本人主体。寄り添うことで信頼関係を作る事が出来ればと思った。
- 82 様々な職場の方の話を短時間ではありましたが、聞く事が出来良い刺激になりました。このような研修をまた行ってほしいです。
- 84 映像を観る上で、注意点を見つけていたつもりであったが、グループワークで他参加者の方の視点がとても参考になった。
- 85 話を聴いたり理解したりしようと努力は必要だと強く感じた。しかし、職場で出来ない時や気持ちに余裕がない時もある。出来ない理由ばかり考えず、どうすればいいのか事業所全体で考える必要があると感じた。
- 86 想像力と当事者に聴く事の大切さを感じました。当事者主体の支援について、今後もう少し深く学んでいきたいと感じました。ありがとうございました。
- 87 グループワークで様々な職種の方の意見が聞けて良かった。
- 88 ビデオを通して客観視でき、グループワークの話合いも具体的で、それぞれの立場の話が出来て良かった。
- 89 ビデオ演習は、自分の施設もあんな感じだと感じた。
- 90 ビデオで見た職員の態度には驚かされたが、自己を振り返ってみると似たようなことがあったのではないかと反省させられた。
- 91 「本人」を見ること、中心にすることで、関わり方が大きく変わるのではないかと感じました。
- 92 施設に入所することを拉致してこられるといった表現は、いかがかと思いました。申し込みをしていることも、順番がきたことも、きちんと話され、了解してもその後忘れてしまうことが認知症なのではないかと思えます。了解して入居しても、自分の家に帰りたくない人などいないと思えます。この逐語録をうまく使うなら、スタッフの対応が上手くないことなんて全員分かっているのですから、では、どのように対応すれば、より良いケアにつながるのか。5年前の現場の話を出されても困ります。虐待のことをずっと悩んでいますが、TV ニュースで見えるものは、いかにも悪そうな若者ですが、実際に、身近な施設を見ると、ベテランを通りこしたおばさまたちがケアの質を下げています。福祉の仕事に夢を持ってこの世界に入る若者の芽を摘んでいるのも大人達です。がっかりしました。ベテランの脳みその入れ替えなどできるのでしょうか？そこに時間を費やすより、若いスタッフの育成が優先だと思います。
- 93 GHやユニットケアの現場では、どうしても1人勤務が多く、その場を離れられないため、利用者本人がいる所で会議をすることが多いが、解決策がないのではどこも同じだなあ…と思いました。
- 94 日常の場面で心当たりがあることを認識し、当事者により添うことが大事だと感じました。
- 95 改めて気付かされることの多い研修となりました。有難うございました。
- 96 世の中では「人権」等は大事だと長年言われているが、なかなか実現できない。どうしても1人でも変われるのか努力したい。

- 97 つるさんの思いを、グループでも一人ひとり違った感覚で捉えていたりしたので、短い時間でも良かったです。
- 98 利用者様の心に向き合うことが一番大事だと思いました。利用者様に耳を傾けて相手の立場で考える。
- 99 RBA の考え方をもう少しわしく、具体的に学びたい。
- 100 当事者主体で考えることが自立支援につながるのではと感じました。
- 101 施設介護での意識の転換期にきたなと思います。
- 102 自分はまだまだ当事者主体の実践者ではないと感じた。
- 103 項目3でも提示しているが、知っていても説明ができない、というものが数多くあるなと感じている。
- 104 大橋理事長の話が大好きなので、理事長の講話を聞く機会もあれば嬉しいです。
- 106 グループで話し合うには少し時間が短すぎたと思います。次から次へと進んでしまうため、話がうまくまとまらなかったことや情報の少なさを感じました。ですが、今現在こういった対応をしている現場は少ないと思います。なので、まずは自分自身が実施していけるよう努力していきたいと思います。
- 107 「本人のためになるから…」 「サービスを早く入れたほうが良い」ということでこちら側に都合の良いように声がけていたかもしれない。あくまで本人を尊重するというのを常に大事にしたい。
- 109 貴重な研修をありがとうございました。もし可能であれば、午前中から開始しグループワークの時間が取れば、なお良いと思います。
- 110 多職種の方とグループワークを行い、感じたことなどが同じになることが多くあったように感じた。今日のことを現場にどうやって伝えていくか難しそう。
- 111 言動だけでなく、考え方、意識の見直しについて考える機会となったことが良かったです。他の研修だと言葉づかいや人としての扱いについてクローズアップされていることが多くあるため、根本を分かりやすく学びました。
- 112 あくまで困っているのは支援者。本人のぬきで処遇を検討すべきでないし、どうしたら本人が安心して生活できるかを考える。
- 113 「人と人と見ていない」それが当たり前と思いつくことで、介護する側が楽になる現状。グループワークで他の職場の意見を聞き、自施設も同じだと思われました。
- 114 人にはそれぞれ権利があるとうすうす分っていても、実践するのは難しい。なぜなら意識がものすごく低いから。この業種に携わる人すべての意識が高まればいいなと感じました。
- 115 グループでの話し合いでいろいろな事業所の方とお話が出来て、とても良かった。もっと専門的な話を聞かせてほしいと感じました。
- 116 現場で働く者として、利用者様に直接的には関係しない沢山の業務と並行した利用者様との対話に難しさを感じました。
- 118 時間配分をもう少し終わるように考えていただきたいです。(1)の進め方、きちんとページを間違えないでお話ししていただきたいです。以上ありましたが、分かりやすい内容でした。グループワークがあるなら、もう少しテーブルなど考えて配置してもらえるとありがたいです。

- 119 良い介護をしていく上で、十分な職員配置が必要にも関わらず、現状介護・看護スタッフの人手不足により十分なサービスができていないのかなと思いました。
- 121 認知症について。権利擁護について。まだまだ勉強不足であり、今後も学びたい。
- 123 利用者への寄り添い。時間をかけ、丁寧に、は十分わかるが、それに対応する時間や人的な数がどうしても不足している現状にある。
- 124 より多くの関係者(事業所等)に改めて、当事者主体であることを考えてほしいと思いました。
- 125 色々な立場の方々と現場での事を含みながら、話ができて良かったです。
- 126 グループワークと通して、他事業所さんの考え方や思いを聞いて良かった。
- 127 介護支援の場面で当事者主体で生活できているのか??できていない場面が多いと身を引きしめる事ができました。
- 128 演習は必要だと思いますが、少し中途半端になっていたように思います。時間配分、構成についてご検討されてはどうかと思います。
- 129 資料のページが行ったり来たりしていて忙しかった。
- 130 当事者主体ということについて、昔から言われてきたことで分かっているが、現場では難しいよねとあきらめている部分であるが、考え方、行動の仕方が分かった。
- 131 日々学ぶこと。一度ならず何度も反復することで自分に身につくと感じました。
- 132 時間が足りないと感じた。
- 133 まだまだ現在の介護の現場では、今回見た動画のような対応をしている介護者がたくさんいると思うので、こういう研修をいろんな方に受けていただき、学んでもらいたいと思った。
- 134 本日学んだ事を職場に持ち帰り、他職員に共有し、全体の権利擁護に対する意識を高めたい。
- 135 介護現場のよくありがちなひとコマのビデオを掘り下げて考える機会となりました。当事者主体がここまで当然のこととして進んでいることにビックリしました。
- 136 最近の研修は洗脳に思える。スタッフも大切だと言いながら無理難題を押し付ける。現実をもっと見てほしい。どの施設でも介護職不足。何でか?やりがいもくそもないから、そして3K。できもしないことを押し付けるより、そっちを改善するように少しは考えてほしい。
- 137 グループの皆さん、認知症の障害と良いケアについて適切な意見を述べられたので、力不足を感じ、学びの必要性を感じました。
- 138 当事者に礼儀と尊重をもって接する…基本だけど忘れがちでした。その方の為と思ってやっていることで間違いが多いと気付きました。本人そっちのけで家族と話しているというお話も思い当たり、大いに反省しました。

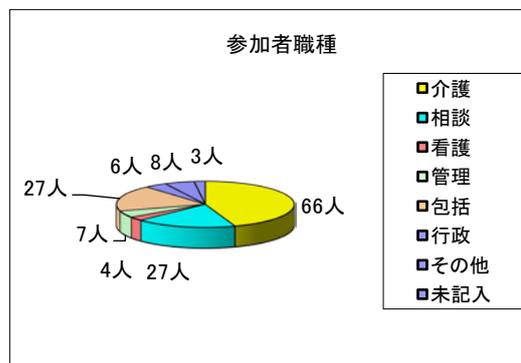
2013.03.15(水)

参加者 148名
提出者 138名 93.2%

1. 職種

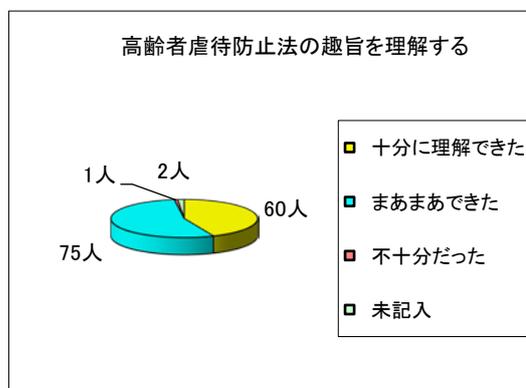
※複数回答あり

| | 人数 | 割合 |
|-----|------|--------|
| 介護 | 66人 | 44.6% |
| 相談 | 27人 | 18.2% |
| 看護 | 4人 | 2.7% |
| 管理 | 7人 | 4.7% |
| 包括 | 27人 | 18.2% |
| 行政 | 6人 | 4.1% |
| その他 | 8人 | 5.4% |
| 未記入 | 3人 | 2.0% |
| 合計 | 148人 | 100.0% |



2. 受講の振り返り① 当事者権利と権利擁護

| | 人数 | 割合 |
|----------|------|--------|
| 十分に理解できた | 60人 | 43.5% |
| まあまあできた | 75人 | 54.3% |
| 不十分だった | 1人 | 0.7% |
| 未記入 | 2人 | 1.4% |
| 合計 | 138人 | 100.0% |



2. 受講の振り返り① 当事者権利から考える「より良い関わり」

| | 人数 | 割合 |
|----------|------|--------|
| 十分に理解できた | 63人 | 45.7% |
| まあまあできた | 71人 | 51.4% |
| 不十分だった | 1人 | 0.7% |
| 未記入 | 3人 | 2.2% |
| 合計 | 138人 | 100.0% |

